

令和3年度第3回阿波おどりネットワーク会議 議事概要

日時：令和3年6月3日（木曜） 10時30分～12時

場所：徳島市役所13階 大会議室

議題：2021阿波おどり事業計画（案）について

出席者：委員17名

内藤座長（徳島市長）
利穂委員（徳島県観光政策課長）
鈴田委員（徳島市経済部長）
矢田委員（一般財団法人徳島県観光協会 理事長）
佐藤委員（公益財団法人徳島県文化振興財団 理事長）
犬伏委員（公益財団法人徳島市文化振興公社 事務局長）
山田理事長（阿波おどり振興協会 会長 朝日委員代理）
池田委員（徳島県阿波踊り協会 副会長）
七條委員（徳島県阿波おどり保存協会 理事長）
森浦委員（徳島県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長）
木内委員（徳島商工会議所青年部 会長）
小松委員（公益財団法人徳島経済研究所 事務局長）
高木委員（水際文化村フレンドリー協議会 会長）
中村委員（NPO 法人新町川を守る会 理事長）
鈴江委員（徳島都市開発株式会社 代表取締役社長）
中谷委員（つなぐ阿呆とくしま 代表）
東委員（徳島大学病院 感染制御部部長）

【会議の内容】

1 開会

2 意見交換

2021阿波おどり事業計画（案）について

（内藤座長）

現在、事務局で、昨年の阿波おどりネクストモデルで作成した感染症対策実施マニュアルをベースに、今年の阿波おどりに対応した「感染症対策マニュアル」を現在取りま

とめており、おどり連をはじめ、参加する全ての方に準備段階から対策を徹底していただくことが重要となってくる。

まずは、徳島大学病院感染制御部の東委員にご意見をお伺いしたい。

(東委員)

事務局から報告があった踊り手の感染症対策については概ね問題ないと思うが、体調管理の後に異常があった時にクラスターにならないよう、体制の整備がさらに必要である。具体的には、おどり連から主催者への連絡体制をつくり、家族内感染などに感染拡大とならないように報告から PCR に繋げる仕組みもマニュアルに落とし込んだ方が良いと思う。

(内藤座長)

次に、阿波おどり団体からご意見を伺いたい。

(池田委員)

選抜阿波おどり大会は、長時間にわたり施設内（あわぎんホール）で踊り手がいなければいけないが、その際に飲食を行うことは可能なのか。

(事務局)

拘束時間が長くなるので、施設内において食事を取ることを想定している。なお、食事を食べられる際も、黙食などの感染症対策にご留意いただきたい。

(池田委員)

分かりました。

(山田委員)

踊り手の立場としては、演舞場内におけるマスク着用が一番気にかかるところである。昨年 11 月のネクストモデル事業では、阿波おどり振興協会として、舞台や栈敷についてはマスクの着用はしなくてもよいということを主催者に確認させていただいたところであるが、現在は新型コロナウイルス感染症の変異株が流行している。以前のウイルス株であれば、屋外ではマウスシールドはもちろんマスクも着用は必要なかったと推察されるが、今回の変異株については、どのようなものを東委員に伺いたい。

(東委員)

濃厚接触の定義は、以前のウイルス株と今回の変異株で特に変わっていない。いずれもマスクなしで 15 分以上が濃厚接触の定義となる。今回の変異株は、数分でも感染しやすくなっており、距離が近かったり、空気が悪い所はより感染しやすいという状況が出ている。

現実的に考えると、熱中症のリスクは高いので、踊り手に関しては、マスクはできないと思う。マスクをするメリットとデメリットを比べた場合、デメリットの方が大きいので、踊り中は、マスクはしなくても良いと思われる。

踊り手の掛け声については、対面にならないようにしていると思うが、観客の方にも発声しないよう、前に向いて掛け声を行い、横に向いて笑顔でサービスするなど、お互

い対面にならないようにしていただきたい。また、待機中にマスクなしで話をすると、そこで感染が容易に成立してしまう。飲水の時は静かに飲んで、どうしても会話しないといけない時には、双方必ずマスクして、マスクも三層式の通気性が良いマスクを準備するなどの工夫が必要だと思う。

(山田委員)

専門家の話を頂いて、協会内の各連長に周知するときに非常に心強く、ありがたく思う。

変更部分について、アスティとくしまはワクチン接種の集団接種会場ということで、最優先すべきだという市長の考え方を含めて、これはもっともな意見だと受け止めている。前夜祭の会場をあわぎんホールに移すことについても、おどり団体での協議で問題ないということは話させていただいた。

昨年は中止となったが、例年 8 月 12 日から 15 日の期間にアスティとくしまの多目的ホールで踊りを披露し、観客と一緒に踊れる交流イベントが開催されていた。本年も既におどり団体にアンケート依頼がきており、可能であればやり方を変えてでも、実施するという事なのか。

(矢田委員)

例年、アスティおどりひろばを 8 月 12 日から 15 日昼の時間に開催しており、今年度について、今のところは予定どおり開催する形となっている。徳島県の集団接種のスケジュールで、高齢者へのワクチン接種が終わり、一般の方にも引き続き、アスティとくしまが集団接種会場になることも十分考えられる。その時は、ワクチン接種の方を優先することとなると思うが、今のところ、8 月以降ワクチンの集団接種会場とならないのであれば、通常どおり「アスティおどりひろば」を開催する予定である。おどり連の踊る場所を確保するという意味でも前向きに検討したい。

(山田委員)

集団接種については、現在 7 月下旬ぐらいまでに終わるという計画がなされているが、それが 8 月以降に延びる可能性も十分ある。そういった中で 8 月 12 日から 15 日に予定通り行くかどうかの確認である。前回で話した桟敷で踊れないおどり連は有名連ではなく、一般の方を含めた連であり、踊る場所を確保する上において、アスティとくしまの夜の部分について、場合によっては自由に踊っていただく場所の提供は可能かどうかを前回意見させていただいた。アスティとくしまを利用することで会場を分散するという意味合いもあり、また、観客もソーシャルディスタンスを取りながら踊りを見ていただくことも可能ではないかと思うので、検討をお願いしたいと思う。

(矢田委員)

ただいまの要望について、検討させていただきたい。

(七條委員)

今回踊ることについて、団体内で協議したところ、本当にうれしい、踊りたいという

方もあれば、不安が拭い去れないという方もいた。その中で、感染対策マニュアルを徳島市が作っていただければ、安心であることを伝えることができ、踊っていただける人が増えると思う。

(内藤市長)

現在出ている意見以外でご意見を伺いたい。

(森浦委員)

企業連などの団体の連は踊れるのか、県外の方が踊れるのかを明確にさせていただきたい。企業連などが踊れるのであれば、人数制限やマスク着用、踊る間隔など、色々問題がある。踊れる場所と踊れる連の数を明記して欲しい。また、にわか連は実施する予定はあるのか。

(事務局)

踊り連については、5月24日に案内を送付し、参加連を募集しているところである。過去の申込実績をもとに、県内外350連余りの連に送付しており、また、徳島市のウェブサイトでも募集ページでお知らせしている。参加申込書において、出演人数は有料演舞場で100人、有料演舞場以外の会場は30人を上限としている。また、今年の阿波おどりにおいて、にわか連の実施は予定していない。

(木内委員)

現在、徳島の感染拡大状況と県外の感染状況については格差が出ているが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ている地域の方に対して、明確にお断りすることを打ち出すのか。あるいは、それぞれの県の要請内容によるものとして、徳島の阿波おどりとしては何も言わない形で対応するのか。

(事務局)

開催規模の判断については、徳島アラートの発動状況や全国の感染状況を踏まえて、総合的に判断することとしている。感染状況によって、県外のお客様をお断りすることは現時点では考えていない。

(木内委員)

前回の会議で、露店の設置をしてはどうかという意見と食べ歩きが出るので露店は設置しない方がいいという意見が出たと思うが、露店についての判断はどうかなのか。

(事務局)

露店については現在検討中であり、最終的な結論は出ていない。

(山田委員)

露店について、社会全体が暗くなっているのが、阿波おどり一色ではなくて、お祭りの雰囲気ということで可能であれば、実施してはどうかと前回の会議で意見を出させていただいた。一部委員の方から食べ歩きに繋がるので、今年は最小限の形で実施するとの指摘をいただいております、その意見を受け止めなければいけない。ただ、交通規制をし、歩行者天国のような形で好き勝手にやるということを推奨するのであれば、会場近

くの道路に面した個人の店舗前が飲食を伴う露店に変わるので、その雑踏に対する感染症対策が難しいのではないかと。そのため、前回、交通規制を設けないことを基本にしていくと申し上げた。

もう一つ具体的な意見として、例えば、例年南内町演舞場を設置していた交通公園をお祭リエリアとして、そこに大きなスクリーンを設置し、ライブ配信を行う。そこに間隔を空けて、感染症対策をしながら露店に入っただく。大麻比古彦神社やゑびす祭りは露店を出している。出入口を固定して、スタッフを配置し、検温や手指消毒の感染症対策を行いながら露店の出店を行うエリアを確保する。そういったことが可能かを東委員に伺いたい。

(東先生)

出入口があり、人の流れは1方向で、そこにスタッフを多く配置し、間隔を保った状態で速やかに飲食物が提供でき、人の流れを良くする。また、休憩する区画内も一方を向いて、人と人のソーシャルディスタンスをしっかりと保てるのであれば、おそらく理論的には可能ではないかと思うが、あまり想像できない。

(山田委員)

露店をするかどうかは色々意見がある。開催まで時間があるので、全体的に話せる機会を設けていただければと思う。

(内藤市長)

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象地域の県外客の受け入れを行うかどうかについて、事務局から「考えていない」という発言があったが、基本的に、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象地域については、行政として、不要不急の往来に関して注意喚起をしているところである。この部分に関しては、皆様と検討をしなければいけない部分であると考えており、意見をいただきながら、今後考えていきたい。

(高木委員)

万全の感染対策を実施したうえで、目標に向かっていくことは大切だと思うが、現段階で参加連の申し込み状況はどのようになっているのか。

(事務局)

集計中であり、今の段階では数字は持ち合わせていない。

(高木委員)

参加連の集計後に踊る場所や感染症対策について、考えていくことは大切だと思うので、そういったことも案としてお願いしたい。

(中村委員)

今回の阿波おどりは、賛成と反対の意見それぞれあり、おどり連の中でも半分は踊りたい、半分は止めた方がいいという意見がある。私自身としては、阿波おどりは最小限にすべきであると考えている。露店が出ると飲み食いが発生するので、個人の店舗の前は別として、公共の場所での露店の設置は無理だと思う。

おどり連の参加申込期間が6月4日までとあるが、申込は多いのか。

(事務局)

現在集計中であり、数字を持ち合わせていない。

(中村委員)

柔軟に受付を行い、違う連でも、踊りたい人たちが踊れるような形で受付をお願いしたい。

アスティとくしまで実施するのもいいが、できるだけ小さな形で開催できればと思っている。

(山田委員)

中村委員の言われることは理解できる。ただ、アスティとくしまについては、踊りたい人に踊れる場所があればということを用意している。規模を最小限にすることは色々な意見があると思うが、最小限にして何が何でも開催するというのは反対である。感染状況が悪化した場合には中止するという事は事務局案ですでに決まっており、委員の皆様は前回の会議を含めて、事務局案にある程度理解を示し、賛成されていると思う。

栈敷席での観覧は有料であり、見る観客としては、踊りたい人が適当に踊っているのを、お金を払って見たいとは思わない。チケット料金を2,000円とするのであれば、それなりの踊りを主催者側が提供していかなければならない。栈敷を無料にするかどうかなど、根本的な議論が必要になってくるのではないかと思う。

(内藤市長)

阿波おどり開催について、色々な意見があることは、徳島市として理解はしており、感染状況や徳島アラート、県外の緊急事態宣言などの状況を見ながら、徳島でどういったことができるのかを考える必要がある。縮小開催ということに関しても、前回の会議でA・B・Cというモデルを出しており、最終的に中止ということも含めてプランを出させていただいているので、そこに関してはご理解いただければと思う。

(山田委員)

露店にこだわってはいない。お祭りのひとつとして提案しただけである。

(中村委員)

今までは魅せる阿波おどりとして、経済効果を重視していたと思う。このコロナを契機として、市民が楽しむ阿波おどりに変えていけるのではないかと。市民が楽しむ阿波おどりに重点を置くべきと思う。市民が楽しむ阿波おどりを県外の人に来て楽しめるような阿波おどりに変えていけるチャンスではないかと思う。

(内藤市長)

まちづくりの観点からも阿波おどりは誰のためのものかという議論も必要であり、それはここで議論していただいて構わないし、(今回徳島市で設置した)再検証会議の

中でも、出てくる可能性はある。私は阿波おどりはみんなのものだと考えているので、それをどのように次世代に引き継いでいくか、どういうものとしてみんなが捉えていくかが大事だと考えている。

(矢田委員)

観光客目線として、観光客が何を求めているのかというのは、地元の踊っている人がすごく踊りを楽しんでいる姿があるから、それを見に行くという形がある。踊り手と地元の人たちの創意で盛り上がっているものを県外の人も見たいという風になることは間違いないと思う。

今年の阿波おどりは、オリンピックとパラリンピックの間の時期であり、他県の祭りがほとんど中止になる中、もし阿波おどりが開催できたとするならば、全国でも徳島の阿波おどりは開催する、さすがだなという人も出てくると思う。今年は来られる人は少ないと思うが、これだけリスクを負って開催するわけなので、いつもよりも広く、全世界に向けて発信することで意義のある、効果のある阿波おどりになることは間違いない。そのあと四国ディステーションキャンペーンやワールドマスターズゲームも控えている。開催できればベストタイミングであると考えている。

ワクチン接種が進んでおり、前回会議より開催できそうだということはあるが、何もかもが全てOKではなく、お祭りでの感染者の発生リスクもあるので、6月下旬の開催判断になるが、事務局には慎重に判断していただいて、次年度に繋がる阿波おどりを期待したい。

(事務局)

阿波おどりの発信方法については、今回お示ししている事業計画の中でも、映像制作に関する経費を計上している。具体的な部分は現在検討中ではあるが、リアルタイムでの発信や、映像を編集して打ち出せるものを検討していきたい。

(中谷委員)

我々（つなぐ阿呆とくしま）が担当するところになると「モデルA」でのおどり広場となる。先週、事務局と打ち合わせをした。前回の会議でも申し上げたが、無料で見ることができる場所なので、市民の方に楽しんでいただけるエリアになるかと思うが、その分、逆に人が集まり過ぎるという懸念がおどり広場にはある。事務局への相談になるが、無料エリアでも事前予約や無料チケットという形で制限を行い、チケットを持つ方しか入れないというような形を設けなければ、音が聞こえたときにより多くの人が集まり過ぎて対処できない。密になるリスクがある。

我々は繁華街のメンバーも多いので、今年は税金を使う阿波おどりだからこそ、このおどり広場に関しては市民や繁華街にとってより良い費用対効果をもたらしつつ、安心安全に努めて、楽しんでいただけるように運営をお手伝いさせていただければと思う。

(事務局)

おどり広場へ観覧に来られる方の人数については、一定の制限が必要と考えており、運営の方法については、今後運営団体と協議の上進めていきたい。

(佐藤委員)

前夜祭の会場がアスティとくしまからあわぎんホールに変更となっているが、舞台の大きさが全然違うので、出演させる方々をはじめとして、開催に向けて、計画していかなければならない。アスティとくしまでは舞台監督を配置していたと聞いている。

開催日まで日が迫っており、稽古や設営の日程など、本番の進行を詰めていく作業が非常に大事になってくる。舞台監督を調整し、スムーズな進行できるようにお願いしたい。また、徳島市、舞台スタッフ、出演するおどり連の方々との打ち合わせを早急に開催し、前夜祭から選抜阿波おどりがスムーズに運営できるように関係者の中での調整をお願いしたい。

(事務局)

おどり協会、主催者、県文化財団を含めた会議において、どのように進めていくのかを早急に協議していきたい。

(矢田委員)

チケット販売体制などについて、本日発表できる部分があればお伺いしたい。

(事務局)

現在、チケット会社と調整を進めているところである。

(矢田委員)

チケットのコンビニ販売は行うのか。

(事務局)

顔認証のシステムを活用する方向で考えており、現在のところ、コンビニ販売は予定しておらず、インターネット販売を予定している。

(矢田委員)

チケットのキャンセル規定はどうなっているのか。

(事務局)

詳細については、チケット会社と協議中である。

(小松委員)

資料3（会場等での感染症対策）について、昨年の阿波おどりネクストモデル事業の検証結果を受けて、6月中旬に感染症対策マニュアルを作成するということだが、今後、市民、県民や全国に向けて、色々な人に安心感を与えるという意味で感染症対策の全体像や方向性を広くアピールしていくことが必要である。さらに阿波おどりを開催することの目的や意義を分かりやすくアピールすることも加えて、市民等に理解を求めていくことが非常に重要になると思う。

5月28日に関西経済連合会が行った新型コロナウイルス感染症に関する提言では、10月末までに希望する国民全員にワクチン接種完了と感染症、緊急事態に対応可能

な医療体制、社会体制構築が盛り込まれている。今回の阿波おどりとは直接的に関係はしないが、徳島市を主体として、新型コロナウイルスに対する色々な体制という意味でアピールしていくことは、阿波おどりに対する側面的な部分でプラスになると思う。

(東委員)

海外の状況を見ると、ワクチン接種が住民の6割が終われば、お祭り騒ぎとなっているところもある。観光、経済も大事だと思っているが、ゴールデンウィーク時における徳島の感染者は非常に多く、「特別警戒レベル4」の状況で、徳島大学病院でも重症患者を受けていたが、ピーク時は、次に入る重症者用のベッドがない状態であった。亡くなった方も65歳以下の方もいた。この時期(8月)にワクチン接種が6割進むかという現実難しいと思う。その中で成功させなければいけないというところで、主催者として、感染症対策をしっかり立てており、そのルールを守ることで安心できる阿波おどりが実現可能というメッセージを明確に伝えていく必要があると思う。

(事務局)

2021阿波おどりの開催状況については、徳島市公式ウェブサイトにおいて発信していきたい。

(内藤座長)

多くの意見をいただいたが、事業計画は概ね理解いただいた。ご意見があれば事務局に連絡をいただければと思う。

引き続き、2021阿波おどりの開催に向けて、理解していただくために、徳島市でも色々な情報発信やアピールを進めてまいりたいと考えているので、皆様方のご協力をお願いしたい。

5 閉会